

# 平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110 歴史ある文化を伝えつつ、新たな文化を創造する
施策	111 新たな文化の担い手を育て、文化芸術活動を盛んにする
施策の目標	区民自身が積極的に文化芸術活動を行い、多くの「すみだ」らしい文化の担い手が育ち、音楽や美術など新しい「すみだ」の文化にいつでも接しています。

## 1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「最近1年間に、区内で文化芸術活動に参加したことがある」区民の割合	%	27.0	-	-	-	-	24.1
「身近に文化芸術活動をする機会や場がある」と思う区民の割合	%	55.0	-	-	-	-	53.8

## 2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
トリフォニーホール年間入場者数	千人	235	250	269	256	250
ホール日数利用(稼働)率(大ホール)	%	95	98	94	99	99
リバーサイドホール施設利用実績	日	1,323	1,360	1,318	1,327	1,457

## 3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>・トリフォニーホールでは、大ホールの日数利用率は各年ほぼ95%と高率で推移しているが、入場者数は横ばい傾向にあるため、より親しみやすい企画の実施が求められる。</p> <p>・リバーサイドホールの施設利用実績は若干上昇傾向にあるが、庁内の会議室不足及び区役所事業の増加が大きな要因となっている。</p> <p>・区民の文化芸術活動は多様化していることから、その推進にあたっては、常に区民の意見を取り入れながら、的確な施策を展開していく必要がある。</p>
---

## 4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>条例及び基本指針に基づき、施策の見直し・改善を行う必要がある。また、施設の運営については、施設の老朽化に伴う修繕も考慮しながらの効率化が求められる。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>「墨田区文化芸術振興基本条例」及び「墨田区文化芸術の振興に関する基本指針」に基づき、区民等による文化芸術活動を推進するための「情報ネットワークの整備」や「場の提供」などの環境整備をより一層進めていく。</p> <p>既存施設については、運営の見直しや更なる効率化を進めるとともに、的確な修繕計画に基づき、適切に管理していく。</p>



事務事業名	墨田区文化芸術振興基本条例推進事業		所管課・係	文化振興課 文化・国際担当
施策	111	新たな文化の担い手を育て、文化芸術活動を盛んにする	連絡先	5608-6212
予算書名称	文化芸術活動推進経費		執行実績報告書ページ	58

1 事業の概要

墨田区文化芸術振興基本条例の第8条及び第9条に基づき、すみだ文化芸術情報サイト(以下:情報サイト)の運用及び本サイト登録者同士の交流を支援し、区の文化芸術活動を促進している。	事業開始年度	平成23年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
情報サイトによる情報の収集・発信をはじめとする基本指針に定めた事業					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
区民がいつでも文化芸術に接することができ、多くの墨田らしい文化芸術の担い手が育つとともに、文化芸術活動が産業・観光・教育などの幅広い分野において効用を発揮し、地域の活性化や人と地域のきずなづくりに寄与している					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	すみだ文化芸術情報サイトの年間アクセス数		件	目標値			36,000
				実績値			38,546
成果指標 (目的に対する指標)	すみだ文化芸術情報サイトへのイベント掲載数		件	目標値		60	100
				実績値		97	100
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
イベントの掲載数は増加傾向にあり、アクセス数も増加している。今後、より一層のサイトコンテンツの充実と、サイト登録者に積極的に本サイトを活用してもらえようプラットフォームを形成する必要がある。							
指標の変更について 情報サイトのアクセス解析ツールの変更に伴い「すみだ文化芸術情報サイトの1か月当たりのページビュー数」を「すみだ文化芸術情報サイトの年間アクセス数」に変更する。 参考:すみだ文化芸術情報サイトの1か月当たりのページビュー数 平成26年度(目標値:7000件、実績値8,029件)							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	文化振興諸費	
27年度 歳出予算額	1,164	27年度 歳出決算額	814	27年度 執行率	69.9%	28年度 歳出 予算額	1,181
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、国・都が文化プログラムの基本構想(ビジョン)をそれぞれ発表し、今後、文化・芸術振興の活性化が予想される。 また、本区もすみだ北斎美術館開館、「隅田川 森羅万象 墨に夢」の実施など、区民が身近に文化芸術に触れる機会が増え、区内の文化・芸術情報発信を行う情報サイトの重要性が高まる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
情報サイトの登録団体が、イベントの広報ツールとして本サイトを活用し、地域の方に芸術に触れる機会を提供している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	効率的
スピーディな情報提供を実現するため、情報サイトの情報掲載までの上申プロセスを改善する余地がある。				
(4)現状と課題	多くの区民に情報サイトを利用してもらうために、より効果的な方法を検討していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	情報サイトの利用促進のために、スマートフォン対応やコンテンツの充実などの見直しが必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	現在運用している委託業者以外からのサイトの改善点等の提案を求め、平成28～29年度内を目標にリニューアルを行う。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成28年第1回定例会	
	要旨	文化振興基本条例を制定後に運用されているすみだ文化芸術情報サイトが、登録アーティスト数も少ない。今後区としてどのようにこの状況を解決するのか。 文化芸術振興基本指針の見直しと文化ビジョンの策定について	

事務事業名	文化振興財団運営及び事業補助		所管課・係	文化振興課 文化・国際担当
施策	111	新たな文化の担い手を育て、文化芸術活動を盛んにする	連絡先	03-5608-6212
予算書名称	文化振興財団運営及び事業補助費		執行実績報告書ページ	58

1 事業の概要

(公財)墨田区文化振興財団(以下「財団」という。)について ・平成8年3月29日 区が5億円(100%)を出損し設立 ・平成9年のトリフォニーホール開館からホールの管理運営を担い、平成18年度からは非公募の指定管理者として2期にわたって指定(第3期からは公募により指定) ・平成24年4月1日公益財団法人へ移行 財団に対し、事務及び事業に関する経費の一部を補助することで、本区における芸術文化の振興と時代を先取りした新たな芸術文化の創造及び発信を行い、区民活動の向上と文化都市の形成に寄与するという財団の設立目的達成の一助とする施策として実施している。	事業開始年度	平成8年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
(公財)墨田区文化振興財団					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
運営費及び事業費の補助					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
芸術文化活動の振興により区民生活の向上と文化都市の形成に寄与することを目的として設立された財団の健全な運営を維持し、その活動を発展させ、もって墨田区の文化振興が図られている					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	研究図書の出版(北斎研究)			回	目標値	2	2	2
					実績値	2	2	1
成果指標 (目的に対する指標)	「北斎」を主とした浮世絵に関する講習会、セミナーの実施回数			回	目標値	17	35	36
					実績値	35	36	39
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
北斎研究については実績が下がっているが、24年度に公益財団法人に移行し、これまで以上に公益性が認められたことから、社会的信用力が向上し、墨田区におけるより一層の芸術文化の振興への取組みが可能となり、講習会・セミナー等の普及事業は順調に進捗している。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	文化振興諸費	
27年度 歳出予算額	126,344	27年度 歳出決算額	111,066	27年度 執行率	87.9%	28年度 歳出 予算額	106,722
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		(公財)墨田区文化振興財団補助金					
27年度 実績額	111,066	28年度 予算額	106,722	対象	(公財)墨田区文化振興財団		
開始 年度	平成8年度	根拠法令	公益財団法人墨田区文化振興財団に対する助成に関する条例				
算定基準	人件費 + 事務管理費 + 北斎事業費			補助率	公益財団法人墨田区文化振興財団に対する予算補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>財団は、本区の文化芸術振興の柱の1つとしての役割を担うことを目的としているため助成は必要であるが、補助金交付に厳しい目が向けられる現在、設立目的を果たしていくことが求められる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>北斎関連事業については「すみだ北斎美術館」開館に伴い、公益事業として明示されている2事業が共に指定管理業務となるため、「その他この法人の目的を達成するために必要な事業」とされてる事業の拡大が必要である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>区以外からの補助金の獲得に努める一方で、さらなるコスト削減が必要である。</p>				
(4)現状と課題	<p>財団事業が音楽事業及び北斎事業に限られていることから、今後の墨田区の芸術文化のより効果的・効率的な振興の視点に立った検討・見直しが必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	財団の管理・運営に当たっては、設立目的を達成するべく適宜見直しを行い、事業の発展、運営の効率化を図る必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>墨田区文化芸術振興基本条例及び基本指針に基づき、財団を、設立目的に沿って墨田区の文化振興全般を牽引する団体としていくため、本区の更なる文化芸術振興に資する事業については、庁内組織改編を見据えながら順次財団に移行していく。 また、管理運営については、更なる効率化を図るよう指導していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	27年決算特別委員会 28年予算特別委員会	
	要旨	北斎美術館の指定管理者となった場合の財団のあり方について 北斎美術館の指定管理者になることによる北斎事業に係る補助金の取扱いについて	

事務事業名	区民団体の音楽・文化活動育成事業		所管課・係	文化振興課 文化・国際担当
施策	111	新たな文化の担い手を育て、文化芸術活動を盛んにする	連絡先	03-5608-6212
予算書名称	区民団体の音楽・文化活動育成事業費		執行実績報告書ページ	59

1 事業の概要

当該補助金は、墨田区文化観光協会の文化芸術振興事業の一環として行っていたが、平成21年4月に同協会が(一社)墨田区観光協会に移行し、観光事業に特化した活動を行うこととなった。これに伴い、平成22年度から、当該補助金事業については(一社)墨田区観光協会から区が引き継ぐこととなった。 以来、区内を活動拠点とする文化芸術団体に対し、補助金を交付することにより、区民の文化芸術活動の活性化とその促進を図る施策として実施している。	事業開始年度	平成22年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
区内で文化芸術活動を行っている団体	に対して					
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
事業に係る経費の補助	を実施したことで					
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
区民の文化芸術活動の活性化とその促進が図られ、地域における文化芸術振興が発展した	状態にする。					
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	国技館5000人の第九コンサート(合唱人数)	人	目標値	5,000	5,000	5,000
			実績値	4,713	4,198	4,561
成果指標 (目的に対する指標)	国技館5000人の第九コンサート(入場者数)	人	目標値	5,000	4,000	4,000
			実績値	3,221	2,802	3,226
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
区内の文化芸術活動の活性化を図るためには、区が経費の一部を負担するだけでなく、人材育成や活動場所の提供など、総合的な支援が必要である。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	区民行事費	
27年度 歳出予算額	8,470	27年度 歳出決算額	8,470	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	7,620
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区文化芸術活動補助金					
27年度 実績額	8,470	28年度 予算額	7,620	対象	区内で文化芸術活動を行っている団体(5団体)		
開始 年度	平成22年度	根拠法令	墨田区文化芸術活動補助金交付要綱				
算定基準	出演料及び謝礼金、会場設営費、使用料、印刷宣伝費			補助率	墨田区文化芸術活動に対する予算補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
多くの区民団体は資金面で困難な状況にあり金銭的支援が必要であるが、他の方策の検討の余地がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
一定の事業効果はあるが、継続的な活動のためには団体の自主努力も必要である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
補助対象の選定にあたり公平性・透明性が必要である。				
(4)現状と課題	補助対象団体や経費などの再検討を行う必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	補助対象団体や経費などの再検討をはじめ、更なる事業効果の拡大に向けた改善を行う。
今後の方向性 (見直しの視点)	平成29年度より公募制に移行する。また、第九に関しては別途要綱を定める。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無
	要旨	無



事務事業名	リバーサイドホールの管理運営		所管課・係	文化振興課 文化・国際担当
施策	111	新たな文化の担い手を育て、文化芸術活動を盛んにする	連絡先	5608-6212
予算書名称	管理運営費		執行実績報告書ページ	60

1 事業の概要

すみだリバーサイドホール条例(平成2年9月28日 条例第28号) すみだリバーサイドホール条例施行規則(平成2年10月31日 規則第55号)  墨田区の文化の発展と振興に寄与するため、すみだリバーサイドホールを平成2年11月に開設した。シンポジウム、講演会、式典など幅広く利用されている。	事業開始年度	平成2年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか								
区 民					に対して			
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
施設の適切な維持・運営管理					を実施したことで			
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか								
様々なニーズに対応した施設として、多くの区民が気軽に利用できる					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	施設利用の実績			件	目標値	1,000	872	898
					実績値	872	898	1,010
成果指標 (目的に対する指標)	リバーサイドホール施設利用実績 述べ件数			件	目標値	1,360	1,318	1,327
					実績値	1,318	1,327	1,457
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
リバーサイドホールの施設利用実績は上昇している。 この結果は、使用料の入らない区役所事業での利用が多いことも一つの要因と考えられるが、定期的に利用する個人・団体も多くある。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	リバーサイドホール費	
27年度 歳出予算額	29,548	27年度 歳出決算額	29,309	27年度 執行率	99.2%	28年度 歳出 予算額	29,975
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	リバーサイドホール使用料			収入額	29,761
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>墨田区の文化の発展と振興に寄与するため、すみだリバーサイドホールを平成2年11月に開設してから、区内に同規模の施設がないことから、利用ニーズは高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>イベントホールやギャラリーの稼働率は平均70%、会議室は72%と利用率が高いことから有効と考える。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>・事業にかかる経費は横ばいではあるが、今後、設備など経年劣化に伴う修繕費の上昇は避けられない。しかし、設置時の理念からも墨田区の文化の発展と振興に寄与することからも継続運営が望まれる。                  ・他施設とはそれぞれ設置目的も異なり、運用形態も異なるため事業統合は困難である。</p>				
(4)現状と課題	<p>区民等への有料貸出施設として事業運営を行っているが、庁舎会議室の不足や区役所事業の増加、並びに後援・共催団体の利用が多いことから収益は減少にある。                  また、開館から26年を経過し、施設・設備の老朽化が目立ってきている。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>区役所利用による優先使用や後援・共催団体が利用の大半を占めている。また、施設や設備が老朽化する一方で使用料の値上げが行われる方向にあるため、区民に利用しやすく、また、貸出施設として利用料を徴収するに相当する設備の整備が必要であるため。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>・庁舎管理担当と連携し、施設・設備の適切な修繕・更新を行いながら、区民が快適に利用できる環境を整備する。                  ・ギャラリーについては、現在7日単位の料金設定しかなく高額であることから、利用期間設定を1日単位でできるよう望む声があるため、検討していく必要がある。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	無
	要旨	無

事務事業名	トリフォニーホール管理運営		所管課・係	文化振興課 文化・国際担当
施策	111	新たな文化の担い手を育て、文化芸術活動を盛んにする	連絡先	03-5608-6212
予算書名称	管理運営費、維持補修費		執行実績報告書ページ	60

1 事業の概要

すみだトリフォニーホール条例第16条の規定に基づき施設の管理運営業務を指定管理者である(公財)墨田区文化振興財団に委託することで円滑なホール運営と音楽都市づくりの着実な進展を図る。	事業開始年度	平成9年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>							
多様な文化芸術への指向性を持った幅広い年齢層の区民					に対して		
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>							
クラシックやコンテンポラリーといった各種ジャンルのコンサート等、幅広い内容の文化芸術の鑑賞機会の提供 区民の文化芸術活動の発表の場をつくるほか、ジュニア・オーケストラの運営等					を実施したことで		
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>							
区民自身が地域に根ざした文化芸術活動の担い手となるとともに、区民生活の身近なところで文化芸術と接することができる					状態にする。		
<b>目的を達成するための指標</b>							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	ホール日数利用(稼働)率 (大ホールのみ)		%	目標値	100	100	100
				実績値	94	99	99
成果指標 (目的に対する指標)	トリフォニーホール年間入場者数		千人	目標値		270	270
				実績値	269	256	250
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>							
<p>こまめなメンテナンスと良質のサービス提供で音楽ホールとしての質を維持することにより、大ホール日数利用率は、各年ほぼ95%と高率で推移している。</p> <p>また、多くのホールが大規模修繕や老朽化により閉館する中で、ホール自体の需要が高まっているため、今後数年、さらに需要が高まっていくものと推測される。</p>							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	トリフォニーホール費	
27年度 歳出予算額	465,161	27年度 歳出決算額	462,086	27年度 執行率	99.3%	28年度 歳出 予算額	414,119
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
区の文化拠点施設として、住民意識調査でも高い評価を受けている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
質の高いサービスや設備等の適切な更新により、稼働率は上昇している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
更なる稼働率向上及び自主事業の入場者数増加により収入を増やすことで、経費削減は可能である。				
(4)現状と課題	サービスの向上に努めながらコスト削減を進めるが、施設の経年劣化が進み維持補修に多額の経費がかかる。また、2020年(東京オリンピック開催の年)から閉館を伴う大規模修繕を予定しており、計画的な維持管理と財源の確保が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	施設の老朽化に伴い想定される大規模修繕等に備え、ハイクオリティな音楽ホールとして求められる質、サービス水準を維持しながら、コスト削減や収入確保に努める必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	平成29・30年度のアスカタワー第3街区4棟共同の消防設備更新については、各管理組合及び管理会社と足並みを揃えながら進めていく。 また、平成32年度に予定している大規模修繕については、新日本フィル及び財団と連携しながら、区民により親しまれるとともに、区の財政負担を軽減できる方策を協議し、計画的に進めていく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第4回定例会	平成28年第1回定例会	平成28年予算特別委員会	平成28年予算特別委員会
	要旨	トリフォニーホールに対するこれまでの評価と譲渡や売却の方向性について すみだトリフォニーホールの今後のあり方について ・トリフォニーホールに対する現状認識について ・大規模修繕の費用捻出についての見込み・財政計画について ・トリフォニーホールに対する区民理解への認識と更なる理解を得るための取組について ・大規模修繕までの取組に関する決意について 利用料金見直しの必要性、事業費について、トリフォニークラブ廃止について トリフォニークラブ廃止について			